

科目名	地域資源の保全と活用
担当者名	堀内久雄/杉山歩

【科目の目的】

山梨県には、豊かな観光資源（文化と自然）があります。持続的な観光開発には自然環境、文化資源を保全しながら開発を進めていく必要があります。

本科目では自然や文化の保全と観光をどのようにバランスさせていくかについて理解してもらうことを目的とし、多彩なゲスト講師をお招きし、実際に行っている活動についてお話を伺いながら、自らどのように行動していくか考えてもらいます。

【学士基盤力】 自然・社会・文化理解、想像力・表現力、実践力・問題解決力、自己学修力

【到達目標】

（知識・理解）

- ・山梨県の自然資源について説明出来るようになる。
- ・資源資源の利活用の意義について説明出来るようになる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・地域資源の活用方法について自ら提案できるようになる。

（態度・志向性）

- ・普遍的価値を持つ資源と保全を念頭に置きながら積極的に活用するようになる。
- ・SDGsについてより主体性を持って意見出来る用になる。

【授業内容】

本講義では前半の4回は主に自然資源・文化資源の保全について学び、後半6回は自然資源・文化資源の活用について学びます。また、講義を通して学んだ内容は13～15回講義としてバスによる現地視察で学びを深めていきます。尚、各回は以下のゲスト講師を予定していますが、講師の都合により多少の入れ替えがある可能性があります。

第1回(4/13)：オリエンテーション

第2回(4/20)：山梨の文化財保護 森原明廣(山梨県立博物館学芸幹)

第3回(4/27)：山梨の縄文 長澤宏昌(鵜飼山遠妙寺住職 日本考古学協会 会員)

第4回(5/11)：富士山 井上義景(富士山旅館組合若手グループ代表)

第5回(5/18)：観光施設 金丸滋(株)アルプス代表取締役)

第6回(5/25)：歴史文化と観光 守屋正彦(山梨県立博物館 館長)

第7回(6/1)：高付加価値型観光 田川貴章(星のや富士 総支配人)

第8回(6/8)：複合型レジャー施設 羽田亮太(株)富士急ハイランド総務部長)

第9回(6/15)：古民家を活用した宿泊 谷口峻哉(NIPPONIA小菅源流の村 番頭)

第10回(6/22)：店舗・土産品開発 竜沢恒(中央物産(株) 代表取締役)

第11回(6/29)：自然体験ガイド 太田安彦(一社)マウントフジトレイルクラブ代表理事)

第12回(7/6)：自然アクティビティ 田村孝次(カントリーレイクシステムズ代表)

第13～15回：大型バスによる現地視察(7月の土曜日を予定)

【授業外の学修】

参考資料の閲覧とレポート課題を課します。

【教育方法】

講義はゲスト講師の講演を聴く形で進めますが、質問時間を多く取り、受講生が積極的にゲスト講師と会話を行う機会を作ります。

【実務経験のある教員による教育方法】

ゲスト講師の実務経験にもとづいた体験談を聞きます。

【評価方法】

(知識・理解)

各回の課題レポート 40%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

最終課題の完成度と各講義での質問時間のレスポンス35%

(態度・志向性)

講義への参加態度 (含 質疑応答、議論への参加、レポート) 25%

【必携図書】

適宜プリントなどを配布します。

【参考図書】

講義時に適宜紹介します。

【履修上の注意】

- ・本科目は、第12回目までは16：30～18：00の時間帯に山梨県立大学飯田キャンパスにて実施します。
- ・第13～15回目の現地視察は、初回授業時に受講生と日程調整を行い、日程を確定します。
- ・時間厳守をお願いします。
- ・オンラインでの受講となった場合は顔出しでの参加を必須とします。

【履修者へのメッセージ】

多忙なゲスト講師を集めました。とても贅沢な講義ですので、積極的に質問をぶつけて下さい。